

13:30-15:00

パネルディスカッション

つながること、学び合うことの可能性

～ コロナから再興し、私たちの地域の未来を創る～

~~エス・バード会場~~ / YouTube配信

時代の潮流に流されることなく、豊かな学びの土壌を育み伝えてきた飯田は今、大きな時代の変化の真っ只中にいます。また、そこに拍車をかけるように押し寄せた新型コロナウイルスは、くらしの様々な場面の様子を一変させました。未曾有の変化に直面し、社会全体の先行きが不透明な時代を生きる私たちは、これらの困難をどのように乗り越えていけばいいのでしょうか。このセッションでは、コロナ禍という社会変化における様々な実践を捉えながら、リニア開通や2050年の地域の姿も見据えたこれからの地域社会の在り方や、知のネットワークの可能性について、学輪IIDAメンバーと地元実践者がともに考えます。

15:15-18:35

飯田学[🍏]大学

～みんなでつくる**学びの輪**～

~~エス・バード会場~~ / zoomオンライン会場

2022年 **1月22日**  **13:30-18:35**
~~【現地受付】13:00~~

オンライン参加の方へ

申し込みは不要です。

当日、学輪IIDAウェブページのリンクからアクセスしてください。

<https://gakurin-iida.jpn.org/>

検索 

学輪IIDAウェブページ 



飯田学[🍏]大学はzoomシステムを使用しますので、お使いの端末へあらかじめインストールをお願いします。基本的に、ビデオとマイクをオフにした状態でご参加ください。
※質疑応答などの場合は、講師の方の指示に従ってご自身でビデオ/マイクをオンにしてご発言ください。

エス・バード会場参加の方へ

事前申し込み制（電話/メール）です。

①お名前 ②住所 ③電話番号 をお知らせください。

※メール申込の場合は、タイトルに「学輪IIDA全体会参加申込」と明記してください。

受付期間

開始：1月4日（水）13:30～17:15（電話受付）12月22日（水）13:30～17:15（内線223）

終了：1月11日（火）17:15～（メール受付）kikaku@city.iida.nagano.jp

**当初、エス・バード会場での
現地開催を予定していましたが、**

■ご来場についてお願い

飯田学[🍏]大学の現地会場定員は、ホール教室1（約100名）ほか3教室はそれぞれ20名程度とさせていただきます。
聴講希望の方は、各教室から当日先着順でご参加ください。

**新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、
完全オンライン開催とさせていただきます。**

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱や咳の症状のある方は会場でのご参加をご遠慮ください。
- ・会場では、マスクの着用および手指消毒をお願いします。
- ・長野県の新型コロナウイルス感染警戒レベルが4以上になった場合、完全オンライン形式に切り替えさせていただきます。

A教室（ホール）

B教室（201）

C教室（202）

D教室（203）

A-1 飯田に集まる！飯田で学ぶ！ 全国の大学教員がタッグを組んだ “共通”カリキュラムのチャレンジ

平岡和久さん、宮國康弘さん
藤井至さん、田開寛太郎さん

学輪IIDA
共通かつ17M
実行委員会

実は大学の先生たちが、学校や分野の枠を越えて学べる“共通”の学習カリキュラムを、飯田を舞台につくっています。そこに全国から大学生が集まり、地元高校も巻き込んだ取組へと成長しました。そこに関わる大学の先生たちが想いを語ります。

B-1 南信州と民俗学

近藤大知さん（飯田市美術博物館）

南信州の民俗研究は、民俗学を創生した柳田国男と地域の人びとの交流のなかで始まり、展開してきました。その歩みを振り返りつつ、この地域の歴史文化の研究を進める上で、柳田の視点を見直す機会としたいと思います。

C-1 明治時代の地図から よみとく歴史的景観

福村任生さん（飯田市歴史研究所）

現代社会は、航空測量技術の発達により、正確な地図が簡単に作成される時代です。一方、航空機のなかった明治時代にも、測量士が地面を歩いて測量した精密な地図が存在します。これらの地図を素材として、近代化の途上にあった明治時代の飯田・下伊那の景観について考えます。

D-1 D-2 D-3

若者が未来を考えるシンポジウム

学輪IIDAプロジェクトみらい

これまで、多くの大学研究者や学生が飯田のヒト・モノ・マチを題材として多角的に探究し、飯田市民と関係を深めてきましたが、コロナ禍によって多くの交流活動が制限される中、学生の活動も大きく制限を受けてしまいました。

このような時期だからこそ、学生が自らの活動を発表する機会として「若者が未来を考えるシンポジウム」を開催します。シンポジウムでは、飯田の魅力を発見し発信している事例、地元高校生と大学生の連携、地域の課題解決への提言などの事例発表や意見交換を行います。このシンポジウムによって若者の活動が活発になり、社会がさらに豊かになっていくことを期待します。

コンテンツ

■飯田市内高校生による発表（予定）

■津田塾大学

- ・水引車椅子スポークアクセサリ
- 「Me's」商品開発の取組
- ・「しぶやフォーラム2021」の取組

■明治大学 建築・アーバンデザイン研究室

- ・飯田市(座光寺地区)と渋谷区(穂町町会、キャットストリート)都市間連携の取組
- ・空き家対策、春草通り・旧測候所活用による中心市街地活性化の取組

■「若者が考える未来」意見交換会

※途中、休憩をはさみながら進めます

A-2 遠山郷における取組から考える 「持続可能な地域づくり」

阿部治さん、小玉敏也さん
増田直広さん

立教大学
ESD研究所

立教大学ESD研究所では、遠山郷（上村南信濃地区）の皆さんとともに、特色ある教育や地域活動の実現に向けてESD（持続可能な地域づくりのための教育）の推進に取り組んでいます。様々な専門領域の大学研究者が携わる遠山郷の取り組みを例にしながら、今後の「持続可能な地域」を一緒に考えましょう！

B-2 飯田市における関係人口の 推計とその特徴

西澤栄一郎さん（法政大学）

人口減少社会における地域活性化の担い手として、住んではないけれどもその地域と多様にかかわる「関係人口」が注目されています。飯田市でも外部の人を巻き込んださまざまな取り組みがあり、関係人口の規模と特徴を調べてみました。

C-2 地域に根づく仏像から 何が学べるのか

織田顕行さん（飯田市美術博物館）

お寺などで仏像調査を行っています。ここ数年は廃寺廃堂を控えたお寺やお堂での調査が増えています。このことは何を意味しているのか。仏像調査からみえる地域社会の変化についてお話ししたいと思います。

A-3 さあ、公民館の話をしよう

秦野高彦さん（飯田市公民館）

「公民館をする」と言われるように、私たちの地域では、公民館は名詞ではなく、動詞だと言われています。また、「公民館に行く」とは、施設である公民館に行くことを指すのではなく「公民館の活動」に参加することも表します。そんな身近な公民館の話をみんなで見ませんか。

B-3 地域分散エネルギー社会 づくりにどう取り組むか

堀尾正靱さん（東京農工大学）

気候危機の解決のかなめは、失われた地域の力を取り戻し、地域自身の手で自然エネルギーの最大限活用を進めることです。特にこれからの10年が重要です。水素やアンモニア等、地域とはほとんど無縁の情報があふれるなか、具体的に、飯田から何をしていったらいいのか、共に考えましょう。

C-3 人口減少時代の ヴァナキュラー デザイン

樋口貴彦さん（東洋大学）

地方分散型社会へ移行が望まれる現代において地域の人々の接点を再構築し、地域を活性化させるサーキュレーションを生み出すものづくり、地域づくりについて、国内外の事例をもとに考えます。

1

15:15-
16:15

2

16:25-
17:25

3

17:35-
18:35